
朋友だより

今年はコロナ禍にふりまわされた一年でした。
それだけに、また今年だからこそ出来た経験も多々ありました。
来年が人類にとり、良い年であるよう願わずにはおれません。

2020年12月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



皇帝ダリア

新しい時代への期待



コロナ禍が世界を覆っています。終息の目処が立たないばかりか、この一週間は感染者数が過去最大を更新しています。本稿執筆の4～5日前から、新型コロナウイルス用ワクチン接種がイギリスで開始されたと報道されました。今回は必ずしも十分な時間をかけての臨床実験を経た上での接種でない様子なので、予想しない副作用の発生がないことを祈っています。

それはそれとして、歴史を振り返りますと、大きな災害を契機に、新しい時代が開かれています。今回のコロナ禍についても、その終息後には、新しい時代が期待できるでしょう。

現在、すでにいくつかその徴候が見られます。宇宙探査機「はやぶさ2号」のカプセルが無事に回収されたことは、次の時代の幕開けにふさわしい出来事です。

最近の新聞、テレビ等の報道から、新しい時代の到来を予感させるいくつかを探ってみます。

グリーン・ニューディールへの期待

ナオミ・クラインの新著『地球が燃えている』（訳者：中野真紀子、関房枝 大月書店 2020年11月）の中で紹介されています。

グリーン・ニューディールとは、気候変動と経済的不平等の両方に対処することを目的として提唱された経済刺激策です。1929年の大恐慌からアメリカ経済の救済を図ったフランクリン・D・ルーズベルトの経済的アプローチと再生可能エネルギーや資源効率などの現代的アイデアを組み合わせた政策を指します。

米国内の、また世界のさまざまな場所から、湧き上がってくる声が、政府に対し気候変動危機に対処するための広範なグリーン・ニューディールを採用するよう要求している。その着想は単純だ。現行の社会インフラを科学者が求めている速度と規模で転換する過程において、人類は経済モデルを修正する100年に一度のチャンスを手にするのだ。現在の経済モデルは大多数の人々を複数の方面で裏切っている。

何故なら、この地球を破壊している諸要因と

同じものが、人々の生活の質に対しても、さまざまな形で攻撃を加えているからだ。たとえば、賃金の停滞、格差の拡大、公共サービスの劣化、そして社会の結束を示唆するすべてのものの破綻など。こうした隠れた力に立ち向かうことは、相互に絡み合った複数の危機を一度に解決する千載一遇のチャンスなのだ。（同書 P.35～36）

しかし、このグリーン・ニューディールは決して、前途洋々たるものではありません。トランプ米国大統領はこれに明確な反対を唱えているのです。

「やつらの政策はまったく馬鹿げている。市民から自動車をとり上げ、飛行機での移動を禁止して、『カルフォルニアまで、電車で行こう』と言う。『牛を飼うことも禁止』なんだからな」

ドナルド・トランプはテキサス州エルパソの選挙演説スタイルの集会でそうぶち上げた。民主党のアレクサンドリア・オカシオ＝コルテス下院議員とエド・マーキー上院議員が提案した「グリーン・ニューディール」決議案を徹底的に非難しての発言だ。（同書 P.304）

著者のナオミ・クラインは同書の序章で、次のように表明しています

ここに収録された論考が、しばしば立ち戻るのは、そのような物語やイデオロギー、経済利権をひっくり返せるかもしれない、さまざまな応答である。そうした応答とは、一見異質な危機（経済的、社会的、生態学的、民主主義的な）と映るものを、文明の変容という共通の物語に組み込むものだ。

今日、この種の大胆なビジョンは、しだいに「グリーン・ニューディール」の旗のもとに結集するようになっていく。（同書 序章 P.25～26）

東京中野区の「ムジンノフクヤ」

東京・中野区野方に、今年8月にオープンした「ムジンノフクヤ」は、全く新しい発想にもとづく商売の在り方として注目に値します。（2020.11.23付 東京新聞）

洋服屋さんでいろいろ店内を見ていると、必ず店員が寄ってきて、「何かお探しですか？」とたずねます。店側としては、顧客へのサービスとしての声かけですが、お客としては「うるさい、自分で探すから、放っておいてくれ」の気持ちになります。

これを解決したのが、「ムジンノフクヤ」です。24時間営業、店員は一人もいません。店舗はあまり広くありませんが、約300点の服がハンガーの色で値段がわかる仕組みになっています。お客は欲しい服の代金を、店内の発売機に入れた上で、持ち帰る仕組みです。

店内には、ノートがあり、気づいたことなどのコメントを自由に書き込めるようになっています。「良いアイデアだ」など好意的なコメントが多いです。

お店の名前も「無人の服屋」をそのまま「ムジンノフクヤ」としている点もおもしろいです。

私が訪れた時は、店内のお客は私一人だったので、ゆっくり品選びができました。店を出たとき、丁度通りがかりの中年の男性と、「こういう新しいアイデアのお店は良いですね」と会話を交わすことができたのも、良い思い出となりました。

映画 フラガール

2020.12.7にNHK BSプレミアムで放映された「フラガール」(2006年製作の映画)も、斬新な試みへの挑戦といえます。

1960年代半ば、閉山が相次ぐ、常磐地方の炭鉱町で、まちの復活を祈念して、ハワイをテーマにしたリゾート施設建設のアイデアが生まれます。その施設の重要な要素として浮上したのがフラダンスです。フラダンサーに転職した女性達の悪戦苦闘を描いたものです。

周囲の冷ややかな眼に耐えながら、真剣にハワイアンダンスの練習に励む若い女性達の姿。新しいことへ挑戦する者が味わう苦労がうまく描かれています。最後のシーンで、全員が一心不乱に踊るフラダンスは見事で、観る人達に大きな感動を与えてくれます。

新しい時代に望むもの

新しい時代を迎えるにあたって何より大切なことは、プラス発想の姿勢を忘れないことでしょう。コロナ禍のため、人と会うのもままならない日々を過ごしていると、マイナス思考になりが

ちですが、ここは何としてもプラス思考の姿勢を堅持したいものです。

プラス思考は本人だけでなく、まわりをも元気にします。しかし、根拠のない空威張りでは駄目です。確固たる科学的根拠に立ったプラス思考が求められるところです。

この点について、今年9月から首相になった菅首相の発言を聞いてみると、自分の言葉で語っていない点が気になります。

本人は、国民に向けては「自助」を要求しながら、国会での答弁は、専ら官僚が渡すメモを読み上げているだけです。

朋友だより164号(2020.6.25発行)で紹介したドイツのメルケル首相のテレビ演説とは、真逆の姿勢です。

この首相のもとで、本当に私達はコロナ禍を乗り越えて、新しい時代を展望できるか、一抹の不安が感じられるところです。

しかし、どれほど困難な状況、事態にも必ず「終わり」はあるものです。不幸な状況が未来永劫続くことは絶対ありません。

人類は必ず、コロナ禍を克服して、次の時代を切り拓きます。その未来の為の準備に取り掛かりたいものです。

12月16日から18日にかけて、新潟県・群馬県境付近の関越自動車道が、大雪のため、多数の車が立ち往生しました。発生から52時間でやっと解除しました。天気予報を40年やっておられる予報官の方も、「初めての経験」と話をしています。気候変動が待ったなしの状況に来ていることを示しています。

政治の世界では、米中の対立が深刻ですが、現在の状況は、地球という宇宙船の中で争っている場合ではありません。皆が心をつにして、私達の宇宙船を守る時期に来ていることを世界のリーダー達が自覚することが、強く求められています。



諸富 徹 著『グローバル・タックスー国境を超える課税権力』

(岩波書店 2020年11月)の紹介

前号に続き、諸富徹氏の近著の紹介です。

経済がグローバル化し、企業もますます多国籍化しつつあるこの時代に課税権力(課税主権を実行に移すことを可能にする「権力」のこと)が、未だ、国民国家の枠組みに留まっています。今やこの矛盾が限界にきています。

各国は様々な税制改革を通じて、この問題に一国単位で対処する努力を行ってきました。だが、それだけでは限界があります。(同書 P.7)

グローバル化の圧力に抗して、公平課税に実現するには、国境を超えるより強力な課税の枠組みが必要となります。各国共同による世界的な共通課税導入の構想などについて論じています。

現状は、アメリカが独自路線を主張し、世界の足並みが統一されていません。OECDで約100年ぶりに国際課税の新ルールが議論され、成果がまとまり、それがG20や世界約140カ国からなる包摂的枠組みの場で議論が重ねられ、少しずつ合意形成が図られてきています。(同書 P.198)

各章のタイトルは下記の通りです。

- 第1章 資本主義とともに変わりゆく税制
- 第2章 グローバル化と国民国家の相克
- 第3章 立ちはだかる多国籍企業の壁
- 第4章 デジタル課税の波
- 第5章 新たな国際課税ルールの模索
- 第6章 ネットワーク型課税権力の誕生
- 第7章 ポスト・コロナの時代のグローバル・タックス
- 終章 租税民主主義を問う

～*～*～ あとがき ～*

朋友だより 167号をお届けいたします

今年は世界中の人々にとって本当に特別な困難が続く日々です。今も緊張が続いていると思います。12/9に冷静沈着で知られるドイツのメルケル首相が「クリスマス前に多くの人と接触し、その結果、祖父母と過ごす最後のクリスマスになってしまうようなことはあってはなりません」と強い口調で国民に懇願しました。また、ジョンソン英首相も感染力の70%強い異変種が見つかったことに触れ、科学には従わなければと国民に危機感と警戒を呼びかけています。日本のリーダーは何を考えているのか?本気度が伝わってこないのは残念というより理解できません。私は知人のFBの里山散策の様子等に慰められ、友人に送ってもらったラベンダーの香りに癒され、何年振りかのTe1・メールでの友たちとの語らいに、又、Zoomでの合唱練習などで力をもらって、今年を振り返っています。コロナ禍の収束、平穏が戻ります様にお祈りいたします。(野上)



朋友

有限会社 コンサルタント朋友

〒174-0064 東京都板橋区中台 1-35-10

TEL. 090-4439-4550 FAX. 03-3935-3510

e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp

URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>